

極き事なりともあるべしとある時ハ安くと後利得玉ん
る事ありとちなりとて理を言ふとやこれ義光公を
而思案ありといふも中より歎前と云ふ故て景陽公
一味ありと由而返る事をこれより急ぎ、家屠之氏
趣き注進し多入或道前之故其堅固に侍る此夫
は加勢方左流ある者又景陽公より追て侍者として
は彦左市一味ありと由悦改められ、出陣中用さ
れ為りて金銀多く送り、事をこれより時に義光公是
をい給く市前仕候の面々に宣ひ、是は延も一味と
はありとこれに贈り物押返さんと作せられ、中庄

寺前守中より、向後の美格別先願は此方の、彦左を
新く此のよりとされ、是は彦左は彦左、市前守中より上
れ、義光公と同一、又彼の進物金限留をこれ即ち
番匠物語の中に及、是市馬廻を配分て被下り、依て近
習ふ様のも、其の誠は景陽公一味と云はれ、ありと
る、かゝる或と云くは、ふやき、然るに一人中より
是金、市公彦左を、あふに、あふ、其、維、合、ハ、彦左公より
直に、市前守中より、聊の、引、なり、と、然る、と、色、は、
出、し、玉、ふ、屋、より、と、これ、ハ、可、此、長、物語、是、あり、其、故
ハ、第一、深き、市、恨、を、大、同、秀、吉、公、と、為、給、ふ、ハ、義、光